

氏名	谷 幹 彦
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 144 号
学位授与の日付	昭和40年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Mesobilirubinogenの臨床的意義に関する研究 第1編 各種疾患時に於ける尿中 Mesobilirubinogen の意義 第2編 実験的肝障害時に於ける尿中Mesobilirubinogenの意義
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

生体内 Urobilinogen は Stercobilinogen, Mesobilirubinogen, d-Urodilinogen に分けられ、これらは多くの議論があったにも拘らず、現在ではすべて腸管内で生成されることが認められている。ところで Urobilinogen の臨床的意義は可成り明確にされたが、Mesobilirubinogen の意義は不明のまま放置されている。特に Stercobilinogen の生成前駆物質であり、より酸化され易い点はその意義を明らかにする上に焦点となる事項である。

そこで著者は第1編において肝疾患を含む各種疾患の尿中 Mesobilirubin の消長を各種肝機能検査成績と対比しつつ検討を加え、次で第2編において実験的肝障害家兎の尿中 Mesobilirubinogen の消長について、前編同様に検討を加えると共に、肝組織像との対比をも行って、これらの裏付けを行った。その結果尿中 Mesobilirubinogen 陽性には肝網内系の関与が強く、肝細胞変性度とは必ずしも相関がないが、Urobilinogen よりもより強く肝障害を表示するものであることを実証した。

岡山医学会雑誌第77巻7号に掲載予定

論文審査の結果の要旨

谷幹彦提出の「Mesobilirubinogenの臨床的意義に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

生体内 Urobilinogenは Stercobilinogen, Mesobilirubinogen, d-Urobilinogen に分けられ、それぞれ生成機序が明らかにされているが、それらの臨床的意義については総括名としての Urobilinogen についてのみ明らかにされているに過ぎない。ところで Mesobilirubinogen は Stercobilinogen の生成前駆物質であり、より酸化に対して不安定であり、Urobilinogen の肝臓内代謝処理は酸化機構と考えられているから、Mesobilirubinogen の消長を追及すれば、Urobilinogen のそれを追うよりもより肝機能を伺うことが出来るのではないかという着想の下に研究が進められている。即ち第1編では肝疾患を含む各種疾患の尿中 Mesobilirubinogen の消長を各種肝機能検査成績と対比しつつ検討を加え、第2編においては実験的肝障害家兎の尿中 Mesobilirubinogen の消長について前編同様の検討を加えると共に、肝組織像との対比を行って、その裏付けを行っている。

その結果、尿中 Mesobilirubinogen の陽性度と肝臓内系障害度との間には密接な関係があるが、肝細胞の変性度とは必ずしも相関しない。然しながら肝機能障害という立場に立てば、その機能異常の些細は別として大いに有意義であり、Urobilinogen としてみる場合よりもより鋭敏にその障害を表示することを明らかにしている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。